



## 地域ブロック情報

日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。今年度から、各地域ブロックの活動について順次ご紹介していきます。

今号は、北海道地域ブロックと東北地域ブロックをとりあげます。

### 北海道地域ブロック から

北海道地域ブロック担当理事

田中 耕一郎(北星学園大学)

北海道地域ブロックの大きな特色の一つは、福祉現場からの問題提起が活発に見られることだと思えます。これまでの研究大会においても現場のワーカーや利用者からのさまざまな発議を基にした議論が多くみられましたし、また、実際に現場から大学院へ入学し、実践課題を研究的に探求してきた会員も少なくありません。このような研究と実践との有機的な連携は当学会の特徴であり、強みであると考えています。

ブロックの活動としては、毎年1回の研究大会、3回の研究会、機関誌『北海道社会福祉研究』の刊行、学会ホームページの運営、年2回の『北海道社会福祉学会ニュース』の刊行等を通して、会員相互の研究的・実践的交流や道内の社会福祉問題に関する議論の活性化、そして、会員の研究・実践の発展に係る支援等に取り組んでいます。

毎年、研究大会以外に開催している研究会ですが、今年度は、夏季に若手研究者向けの会を、秋季には北海道における社会福祉研究の今日的課題を取りあげる会を、そして、冬季には海外の研究動向に学ぶ会をそれぞれ設定しました。また、年に1回発行している機関誌『北海道社会福祉研究』は、昨年度から電子ジャーナル化に取り組み、今年度より学会ホームページにPDFを掲載できるようになりました。

特に今年度は、日本社会福祉学会第61回秋季大会を北星学園大学で開催するため、現在、学会員はじめ関係者の皆さまのご協力をいただきながら、準備を進めております。

北海道では経済回復の動きが全国に比べて弱く、雇用情勢も長く低迷が続いており、また、少子高齢化も全国より早く進行しています。また、公共事業等の政府投資にその経済を依存してきた地域では、新たな地域づくり等、社会福祉が担うべき課題も顕在化しています。このような状況下において、既に北海道の基幹産業の一つとして成長した社会福祉関連事業の人的資源や連携力を、地域の再生やその健全な発展に活かしてゆくために、当学会が担うべき役割も少なくないと考えております。



## 東北地域ブロック から

東北地域ブロック担当理事（東北地域委員会委員長）

**塩村 公子**（東北福祉大学）

東北地域委員会副委員長

**都築 光一**（岩手県立大学）

2012年度の東北地域ブロックの活動は、例年実施している研究大会開催と研究誌の発行、日本社会福祉系学会連合への協力による活動とに分かれる。

東北地域ブロックの活動は、被災地域ということもあり、2011年に引き続き、東日本大震災による被災者への支援のあり方等を中心に、「震災復興への社会福祉支援の現状と課題」をテーマとした年次大会を、山形県南陽市の羽陽学園短期大学において開催した（2012年7月21日）。シンポジウムでは、山形県の会員が発災直後は津波被害の市町村支援に向かい、その後は、放射線被害を逃れてきた福島県民への支援にも関わっていった経緯が報告された。また少子高齢化の進行した東北において、こうしたときこそ福祉避難所を意識した施設間の協定が必要である点も強調された。

日本社会福祉系学会連合による活動への協力では、連合本体の企画と、震災対応委員会の企画の双方に関わった。まず学会連合本体の事業としては、シンポジウムが二回開催された（①2012年7月29日：盛岡地域交流センター、②2012年12月22日：東北福祉大学ステーションキャンパス）。①では主として社会福祉協議会や民生委員を中心としたテーマ、②では社会福祉専門職の活動が中心のシンポジウムであった。

これに対して同連合震災対応委員会企画の活動としては、①民生委員と生活支援相談員の活動のあり方に関するシンポジウム：岩手県立大学（10月）、②災害派遣福祉チームの必要性を検討するシンポジウム：盛岡市（11月）、③岩手・宮城・福島の社会福祉士会関係者による災害ソーシャルワークと災害派遣福祉チームに関するシンポジウム：宮城学院女子大学（2013年1月）の開催と、被災地大船渡における研究会（2013年2月）が挙げられる。この研究会では5件の興味ある報告がなされた。

総じて、被災地ということもあり、部会自体が開催する企画と、協力依頼に対応した企画とを実施したところである。2013年度は、内容の更なる充実を図りたい。